

石川小学校区 保幼小連携に関する研究

水戸市立石川小学校

わくわくの森保育園

水戸市立石川認定こども園

目指す幼児・児童像

石川小学校	◇明るく元気な子 ◇よく考える子 ◇思いやりのある子 ◇きまりを守る子 ◇進んで働く子
わくわくの森保育園	◇自主性を育てる ◇健康な子どもに ◇友達を大切にする ◇創造性を育てる ◇保護者と保育者が協力して子どもを育てる ◇きまりを守れる子どもに
石川認定こども園	◇生き生きとした元気な子供 ◇思いやりのある心豊かな子供 ◇自分のことが自分でできる子供

研究テーマ

コロナ禍で見えてきた保幼小間の交流の在り方 ー相手を思いやる子どもの育成を目指してー

1 主題設定の理由

石川認定こども園と石川小学校は隣接し、同じ公立であることもあり、教職員の研修や幼児・児童の活動などを通して、以前から交流を行っていたが、ここ数年はコロナ禍で対面での交流は難しくなっていた。また、わくわくの森保育園は設立4年目の民間の保育園で、こちらもコロナ禍により小学校との連携はほとんどできていないのが現状であった。

そんな中、今回の研究を始めるにあたり、『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』をもとに、幼児・児童の現状を探ってみると、コロナ禍の影響で、人との関わりが減り、相手の気持ちを考えることや言葉による伝え合いが難しくなっているという姿が見えてきた。

そこで本研究では、コロナ禍が落ち着いてきた中で、これまでの保幼小連携の在り方を見直し、イベント型ではなく生活の一部として継続して取り組める交流方法を考え、その交流や活動を通して、コロナ禍で難しくなっていた人との関わりやつながりや幼児・児童が意識し、相手を思いやることのできる子どもを育てていきたいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

- (1) 幼児・児童の実態に合わせて交流事業の見直しや工夫を図り、相互理解とより円滑な接続につなげる。
- (2) 協議や交流活動を通して、保幼小間の持続可能な連携体制・組織作りを目指す。

3 具体的な取組内容

(1) 第1回石川小学校区保幼小連携協議会

- 〈日時〉 令和4年6月10日(金) 午後3時より
- 〈会場〉 水戸市立石川認定こども園 うめ組保育室
- 〈出席者〉 小学校2名 保育園3名 こども園2名 幼児保育課運営管理係指導担当3名
- 〈内容〉 ○各施設の保幼小連携への取組の現状についての報告
○研究主題についての協議 ○研究の進め方の協議 ○情報交換

(2) 第2回石川小学校区保幼小連携協議会

- 〈日時〉 令和4年6月29日(水) 午後3時15分より
- 〈会場〉 水戸市立石川認定こども園 会議室
- 〈出席者〉 小学校2名 保育園2名 こども園2名
- 〈内容〉 ○各施設で協議した幼児・児童の現状についての結果報告・情報共有
○研究主題についての協議 ○研究の進め方の協議

(3) 保育園・こども園 保育参観

- 〈日時〉 令和4年7月22日(金)・8月18日(木)
- 〈会場〉 わくわくの森保育園・水戸市立石川認定こども園
- 〈出席者〉 7月22日…小学校教員7名 8月18日…小学校教員2名
- 〈内容〉 ○夏休み期間中の上記2日間、わくわくの森保育園・石川認定こども園で小学校教員が保育参観を実施した。就学前の幼児の様子や保育者の関わり、環境設定等を参観する。

(4) 第3回石川小学校区保幼小連携協議会

- 〈日時〉 令和4年8月22日(月) 午後1時30分より
- 〈会場〉 水戸市立石川認定こども園 会議室
- 〈出席者〉 小学校2名 保育園2名 こども園1名 幼児保育課運営管理係指導担当1名
- 〈内容〉 ○保育参観の実施報告 ○研究の進め方の再検討

(5) 石川小学校「学校へようこそ」・石川認定こども園「こども園へようこそ」の同日開催

- 〈日時〉 令和4年10月31日(月) 小学校…午前9時15分から11時10分
こども園…午前10時から11時30分
- 〈会場〉 石川小学校・石川認定こども園
- 〈公開対象者〉 石川小学校在籍児童の保護者 石川認定こども園在籍園児の保護者
- 〈内容〉 ○例年実施している学校公開・園公開だが、コロナ禍の現状を踏まえ、地域の方への参観を見合わせることに伴い日程を変更し、小学校とこども園の公開日を合わせたことにより、それぞれの保護者が相互の授業・保育を参観できるようにした。

(6) 石川認定こども園 保育参観

- 〈日時〉 令和4年10月31日(月)・11月1日(火)
- 〈会場〉 水戸市立石川認定こども園
- 〈内容〉 ○わくわくの森保育園の職員が両日2名ずつ、こども園の保育の様子を参観する。

(7) 石川小学校『あきランド』

- 〈日時〉 令和4年11月29日(火) 午前10時より
- 〈会場〉 水戸市立石川小学校 体育館
- 〈出席者〉 石川小学校1年生 わくわくの森保育園5歳児 石川認定こども園5歳児
他 近隣保育園2園 5歳児
- 〈内容〉 ○歌(「さんぽ」をみんなで歌おう)
○一緒に遊ぼう(お店屋さんごっこ・ゲームコーナー)

(8) 第4回石川小学校区保幼小連携協議会

- 〈日時〉 令和4年12月20日(火) 午後3時30分より
- 〈会場〉 水戸市立石川認定こども園 うめ組保育室
- 〈出席者〉 小学校2名 保育園2名 こども園2名
- 〈内容〉 ○活動実施状況報告(保幼小間における活動の共有)
○今後の実施計画と実施内容の検討 ○情報交換

(9) わくわくの森保育園 保育参観

- 〈日時〉 令和5年1月12日(木)・1月20日(金)
- 〈会場〉 わくわくの森保育園
- 〈内容〉 ○石川認定こども園の職員が両日2名ずつ、保育園の保育の様子を参観する。

(10) 石川小学校一日体験

- 〈日時〉 令和5年2月13日(月)～2月22日(水) 登校時から5時間目開始時間まで
- 〈会場〉 水戸市立石川小学校
- 〈参観者〉 わくわくの森保育園保育士19名 石川認定こども園教諭2名
- 〈内容〉 ○上記の期間、石川小学校でわくわくの森保育園・石川認定こども園の職員が授業参観を実施した。就学後の児童の様子や小学校の生活の流れ、環境設定等を参観する。

(11) リモートによる保幼小交流

- 〈日時〉 令和5年2月14日(火) 午前11時から12時まで
- 〈会場〉 水戸市立石川小学校・わくわくの森保育園
- 〈出席者〉 石川小学校1年生 わくわくの森保育園5歳児 石川認定こども園5歳児
- 〈内容〉 ○事前に、石川小学校から送ってもらった「1年生の一日の生活」の動画を見て、幼児が小学生に聞きたい質問を考えておく。
○石川小学校とわくわくの森保育園をzoomでつなぎ、石川認定こども園の幼児がわくわくの森保育園を訪問して、一緒に参加する。
○入園後の1年生について(登校の仕方・教科書紹介)
○保育園・こども園の幼児からの質問(小学校への疑問・不安・知りたいこと等)

(12) 第5回石川小学校区保幼小連携協議会

- 〈日時〉 令和5年2月15日(水) 午後3時30分より
- 〈会場〉 水戸市立石川認定こども園 うめ組保育室
- 〈出席者〉 小学校2名 保育園3名 こども園3名 幼児保育課運営管理係指導担当1名

4 成果（進捗状況と今後の課題）

（1） 成果

今回の研究をきっかけに、以前から取り組んでいた幼小の連携をベースに、今まで交流の機会がなかった保育園との交流も加わった。小学校教員による保育参観や保育園・こども園の職員による小学校一日体験、保幼小連携協議会を通して、職員同士がそれぞれの園・学校について理解を深め、連携することができた。

まだコロナ禍による感染症の懸念が残り、対面での交流が難しい状況で、交流の在り方を考え、今回リモートという形でオンラインを利用した交流を行った。園では、事前に1年生の一日の生活についてまとめた動画を見せてもらい、小学生への質問を出し合ったが、始めは何を質問したいのかが分からなかった。しかし、2回、3回と繰り返し動画を見ていくにつれて、少しずつ様々なことに気が付き始め、疑問や質問したいことが出るようになった。さらに交流当日、友達が様々な質問をし、それを1年生が答える場面を見て、新たな疑問が出てきたり、小学生と話したいという気持ちが芽生えたりして、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

また、リモートという大人も子供もまだ不慣れなシステムの中で、“本当に相手に伝わっているのか” “どう伝えたら相手に伝わるか” と相手のことを考えながら、話す時はゆっくり話し、聞く時は静かに集中する姿が見られた。

今回の交流を通して、幼児は、実際に見たり、体験したりすることで就学に期待をもち、不安を取り除くことにつながった。また、児童も、コロナ禍により限られた環境の中で生活してきたため、今回の幼児との交流で、外部へ発信する体験ができたことで、活動する場や世界が広がるきっかけとなり、自分が年上であるという自覚や、自分が教えてあげようとする気持ちを高めることができた。



（2） 課題

今回、リモートを使ってオンラインでの交流を初めて実施し、対面とオンライン両方のよさや課題を知ることができた。今後は、コロナによる対応が緩和することが予想されるため、対面での交流も増やし、両方のよさを生かした交流ができる方法を探りたい。

また、今回の連携の取組の中で見られる幼児・児童の姿や成長を担当者間だけでなく全職員で共有し、相互参観も含めて、保育園・こども園・小学校全体での共通理解や取組となっていくようにしたい。さらに、共通カリキュラムの作成や見直しを行い、2年間の研究が終了した後も、この連携や取組が継続的に続いていくような体制づくりをしていきたい。